

福岡プレミアムタクシー

手元に短冊形の小さなパンフレットがある。真っ黒な地に上部にほんの数ミリの幅で博多織の五色の色が印刷され、英文字で小さくPREMIUM TAXIの文字。そして中央部に「プレミアムタクシー、それは福岡のおもてなしの心をのせて走るタクシーです。」と白抜きで文字で控えめに書いてある。パンフレットの見開きを開いてみても、タクシーの写真は何処にもない。あるのはプレミアムタクシーのデザインのモチーフになった「博多織五色献

プレミアムタクシーパンフレット



上」の説明である。そしてプレミアムタクシーのコンセプトが簡潔に語られる。

『プレミアムタクシーは、ひとつ上のサービスを提供するだけでなく、福岡の文化を伝える特別なタクシーとして誕生しました。福岡ならではの『おもてなし』の伝統にのっとった、あたたかなサービスや人情でお客様を歓迎します』

二月十日、名古屋市の若手タクシー経営者の集まりである「名古屋タクシー政策研究会（会長 犬飼東海交通取締役）」十七名が福岡市タクシー協会のプレミアムタクシーの取り組みへの研修事業を行った。

準備の段階で、自分がたまたま政策研究会のメンバーであるつばめ自動車の澤井専務とタクシー問題懇談

会でお付き合いがあったので、親しくさせて頂いて頂いている大稲グループの稲員会長を通して

清野吉光氏のコラム

団塊 耕 志 録 第17回

清野 吉光(きよの よしみつ)略歴

1950年 長野県四賀村生まれ、松本深志高校卒業。1968年上智大学外国語部ロシア語科入学、1971年 中退。その後印刷関係など様々な職業に従事。1976年清水市の日の丸交通入社。1980年静岡市内の事務機器センターに入社。1982年システムオリジンを仲間と創業、専務取締役。1992年代表取締役社長就任。2000年株タクシーサイト創立、現取締役会長。2007年タクシーアシスト代表取締役社長に新任。現在に至る。



タクシーと文化!

て、福岡市タクシー協会の宮寄専務理事にお願いをしてプレミアムタクシーのプレゼンの場を設けて頂いた。自分も紹介させて頂いたという名目でちゃっかりとこの場に参加させて頂き、先のプレミアムタクシーのパンフレットを頂いたという次第。

福岡市の協会側でも以前名古屋市を訪問し、名古屋の業界に世話になったとの事で中井会長を始め、業界の幹部の方達に、総出で歓迎して頂いた。福岡市内で現在唯一のプレミアムタクシーの待機ホテルとなっているANAクラウンホテルのラウンジにおいて、午後五時より協会の会長である中井清流タクシー社長の歓迎の挨拶と副会長でプレミアムタクシー実行委員会の長である安川タクシーの安川社長によるプレゼンテーション、そして、懇親会の場も用意して頂いた。

福岡市のタクシー協会では以前より乗務員の質を高める取り組みとして、乗務員に対する接遇研修や管理職向けの研修を行っていた

が、市内の有名ホテルなどからの要請に応え、より質の高い乗務員を養成する取り組みを検討してきたこと。その中で様々な議論を経て「地域の特色と文化」を伝えるタクシーというコンセプトを得たとの事。

福岡交通圏はコンベンションの誘致や海外からの観光客が増加し、また平成二十三年三月に九州新幹線の全線開通が予定されているので、福岡とりわけ「博多」の文化をアピールできるタクシーを、という事で、こだわりのプレミアムタクシーを昨年十一月十二日、六社七両でスタートした。

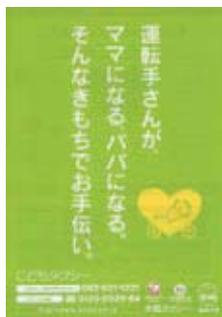
タクシーと文化!

はたしてタクシーが文化



を伝えられるものか?という戸惑いと、逆にタクシーもそこまで来たのだという思いが自分の中で交錯をした。それができたら素晴らしい!安川社長もプレゼンの中で仰っていた事は、「不毛な運賃競争から文化と、地元外交都市博多に根付く『おもてなしの心』を伝える競争であれば負ける筈はない」と。

そしてそのこだわりを形で表現するものとして、黒塗りの車両に博多織の原点といわれる五色献上をモチーフとしたボディカラーにしている。そのこだわりは乗務員さんの制服、ネクタイにまで及び「徳、仁、礼、信、智」をあらわすそれぞれの色のどれかに車両、制服、ネクタイ、運賃収受用の布まで統一されている。博多にはこうしたこだわり文化を受け入れてくれる土壌があるらしく、利用者



こどもタクシー

の評判は高いようで、現在十七社二十両の運行のところに、今年度中に五十両にまで増やす予定との事。

特措法の下、地域協議会が開かれる中で、ともすれば減車だけに関心が行きがちではあるが、まさにこうした「活性化策」こそ挑戦されるべきことだと思つた。プレミアムタクシーにしてもそれを実現するのにはいろいろ難しい問題があったと思われる。しかし協会役員の方も仰っていたが、「いろいろ問題があつても、まずやってみよう」という安川社長の積極的なリーダーシップがこのプレミアムタクシーを実現したとの事。「文化」が新しいタクシー需要を創造するとしたなら、乗務員さんにとつてもまた経営者にとつても、こんな遣り甲斐につながる事はないのでは無いだろうか。

もうひとつの文化

実は名古屋タクシー政策研究会は、プレミアムタクシー見学の前に、もう一箇所福岡市内のタクシー事業者を訪れている。それは本コラムで



プレマタクシー

も何度か言及させて頂いたプレマタクシー、こどもタクシーの大稲自動車さんだ。

午後三時から一時間程、大稲自動車の高木常務からプレマタクシー&こどもタクシー、そして大稲グループ全体のスローガン「ぬくもりをいつも」に基づいた取り組みのプレゼンを受けた。これらのサービスははつきり言うてコストばかりが掛かって収益に結びつかず、乗務員さんの協力を得るのも難しい。しかし大稲さんでは、ある特定の乗務員さんがプレマ&こどもタクシーをやるのではなく、全部の乗務員さんが積極的に携わっているとの事。また最近では「ふたつの命」へのより確実な責任を果たすために、ケースにより二台の車を差し向けることがあるとの事。もちろん運賃は一台分。もう一台分は基本的に乗務員さん負担。そしてその必要性が、乗務員さんみずから

提案されて来たとの事。こうなると、これは文化の領域としか考えられない。そして注目すべきは、この一見NPO的な行為としか思えない文化的所業。非経済的な動きが、実はある時間的なスパンの経過の中で「目に見えない価値」が重視される「目に見えない資本主義」の時代で、需要と価値を生んでいくことになるという予感と確信だ。

三日月政務官はタクシー問題懇談会の新年会の講演の中で「タクシー産業は成長産業だ!」と宣言した。タクシーの利用者がこの三十五年間で半分減り続けている中、こうしたことを言う根拠は何か?自分流に解釈すると観光、環境、福祉の分野は、まさに人の心に関わる分野。文化の分野であり、そこでタクシーが文化産業のメインドを持ち、かつITを活用して、その効率性をも担保する事がタクシー産業の成長のために必須であり、またそれは十分可能だし、交通基本法の制定、道路運送法の改正の中でそれを担保したいという事ではないかと思つた。

プリンター一体型業務用アルコール測定器

ALC-miniⅢ

¥83,000より

アルコールだけに反応 音声ガイドで簡単操作

コンパクトなボディにプリンタ機能搭載!
吹き込む・測定する・記録する、の
カンタン3ステップアルコール測定!



息を吹いて下さい。

2011~2012年にかけて、全ての事業者はアルコール測定器の使用が義務付けられます。(事業用自動車総合安全プラン2009)

義務化に向けて
備えの1台です!

※表示金額には消費税、保守料等は含まれておりません。

お申し込みお問い合わせ 株式会社 システムオリジン Tel.03-3834-8352

関東支店営業本部 〒101-0021 東京都千代田区外神田 5-3-4 田中ビル7F 拠点/北海道・東北・関東・甲信越・東海・名古屋・関西・中国・九州

製造元

東海電子株式会社

http://www.tokai-denshi.co.jp